

アメリカンフットボールの北海道学生選手権は最終節の20日、札幌学院大グラウンドで1部の2試合を行い、札幌学院大が35-28で北星学園大を下し、帯広畜産大が43-0で札幌大に圧勝した。この結果、1部の最終順位は①北海道大（5勝）②北海学園大（4勝1敗）③札幌学院大（2勝1分け2敗）④北星学園大（2勝3敗）⑤帯広畜産大（1勝1分け3敗）⑥札幌大（5敗）となった。

2年ぶり26度目の優勝を飾った北海道大は、11月3日に仙台市陸上競技場で行われる全日本大学アメリカンフットボール選手権大会の東日本代表校決定戦準決勝・パインボウルで、東北学生リーグ1部の優勝校と対戦する。勝利校が同決定戦決勝（12月1日、横浜スタジアム）で関東大学代表校と甲子園ボウルの出場権を争う。

13日で全日程を終了した2部の最終順位は①室蘭工業大（4勝）②東京農業大（3勝1敗）③北海道科学大（2勝2敗）④釧路公立大（4敗）⑤北海道医療大（1勝3敗）＝北海道医療大は棄権試合があるため、規定で最下位＝。27日の1、2部入れ替え戦（午前10時、札幌大グラウンド）は、1部最下位の札幌大と2部優勝の室蘭工業大が対戦する。

札幌学院大ー北星学園大戦は、第2Qに札幌学院大がQB小川大輔（4年、函館西高）からWR中田大夢（4年、札幌龍谷高）への2本のTDパスを決めてリードした。第4Qは一転して点の取り合いとなった。札幌学院大が、この日281ヤードを走ったエースRBアンダーソン・真・グレン（3年、北広島西高）のランで3本のTDを加えると、北星学園大もQB二階堂真登（3年、室蘭栄高）が4本のTDパスで猛追。試合終了20秒前には、この試合で203ヤードを捕球したWR村屋隆侑（4年、北星大付高）の3本目のTDキャッチで7点差に迫ったが、あと一歩及ばなかった。

札幌学院大の佐藤敏弘ヘッドコーチは「けがから復帰したアンダーソンがしっかりと走ってくれた。来年に向けて基礎的な動きと

フットボールI Qをもっと高めたい」と巻き返しに期待。主将としてもチームを引っ張ったQB小川は「帯広畜産大戦に引き分けてペースダウンしてしまった。来年こそ一部上位校の誇りを持ち、優勝を」と後輩たちに託した。

札幌大ー帯広畜産大戦は、帯広畜産大が第1 QにDL相沢秀輔（1年、帯広柏葉高）のファンブルリカバーTDで先制。第2 QにRB渡辺駿（3年、愛知・中部大朝日丘高）とRB池田海斗（3年、富山・魚津高）の連続TDでリードを広げると、第4 QにもRB池田、渡辺、堂地和寿（1年、帯広柏葉高）のTDランで加点した。札幌大は2本のインターセプションを奪うのが精いっぱいだった。

帯広畜産大の浦田望ヘッドコーチは「DB山村達也（2年、大麻高）が2本のインターセプションを決めるなど、強い守備の力を発揮できた。タックルの強化と1年生の底上げがこの冬の課題」と来季を見据えた。先発QBの負傷で第2 Q途中からチームをリードし、4 TDを演出したQB貫井哲平（2年、千葉・船橋東高）は「優勝を目指し、来年は攻撃のチームにしたい」と決意していた。